

# 玉城の

# 考古学

初公開遺物もザックろ



令和2年11月13日(金)～12月13日(日) 村山龍平記念館 2階展示室

## 上地山遺跡

旧石器時代 玉城町宮古(下外城田地区)

遺跡全体の大部分の面積を対象に発掘調査が行われ、ナイフ形石器をはじめとする総数778点もの石器類が出土しました。



## 田丸城跡

南北朝～ 玉城町田丸(田丸地区)

田丸城は、南北朝時代の延元元年(1336)、北畠親房が玉丸山に南朝側の拠点として砦を築いたことに始まります。この場所は、南朝方の拠点である吉野から伊勢神宮の外港である大湊へと通じる交通の要所でした。

戦国時代になると、織田信長が伊勢国を攻略し、信長の次男、信雄が田丸城の改修を進めたとされています。江戸時代に入ると、稲葉氏ついで藤堂氏が城主となり、田丸城を大改築したと伝えられています。さらに、元和5年(1619)には紀州徳川家の家老である久野氏が城主となりました。

明治2年(1869)に廃城となり、同4年には城内の建造物は解体・処分されてしまいました。

土造りの中世の城と、石垣造りの近世の城の両方の特徴がよく残っていて、昭和28年(1953)に県史跡に指定されました。

田丸城跡は昭和55年(1980)以降、石垣の修復や建物の建設、遊歩道の整備などに伴って、これまでに25回以上の調査が行われてきました。

平成14～15年には、本丸への入口(本丸虎口)が発掘調査されました。この場所は、道を折り曲げて敵の侵入を阻む構造をしており、石垣だけでなく、門や建物の礎石や石組みの側溝、石段などの遺構が確認されました。

また、これまでの調査によって、瓦を中心とする多数の遺物が出土しました。瓦の中には、久野家の家紋である「五瓜に三つ巴」紋が入った瓦も出土しています。



## 原古窯址群

飛鳥・奈良時代 玉城町原(外城田地区)

度会郡玉城町から多気郡多気町は、7世紀代を中心に南勢地域最大の須恵器生産地(外城田窯址群)でした。

原古窯址群は、外城田窯址群の一つで、7世紀後半～8世紀初頭を中心に須恵器を生産していました。窯の近くから、焼成に失敗した須恵器片が出土しています。



## 泉貢窯跡

平安時代 玉城町積良(外城田地区)

10世紀前半頃に操業していた須恵器窯で、半地下式の窯です。窯壁は被熱のため、よく焼き締まっていた。県内でも最も新しい時期の須恵器窯の一つです。



## 岩出地区内遺跡群

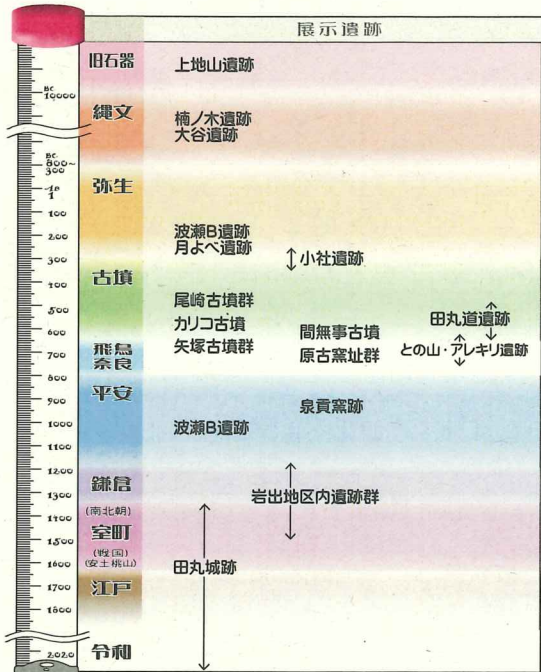
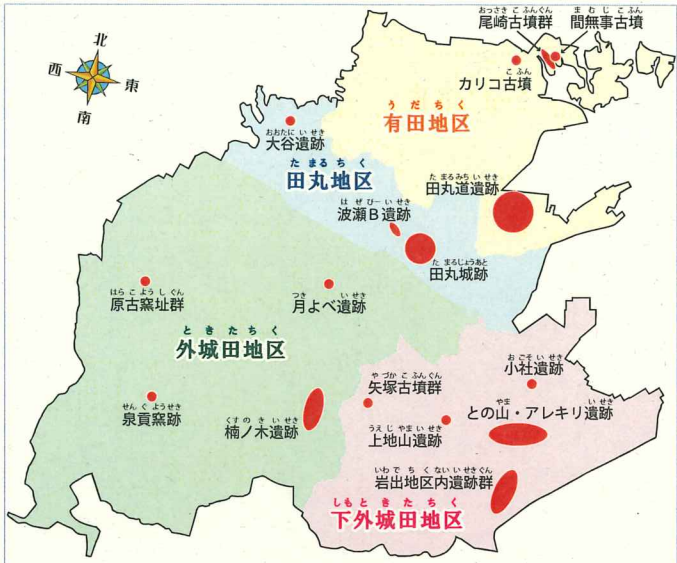
鎌倉～室町時代 玉城町岩出(下外城田地区)

玉城町岩出地区内全域に広がる面積約49万㎡にもおよぶ広大な遺跡です。旧石器～江戸時代にかけての遺跡ですが、特に鎌倉～室町時代の集落跡が特徴的です。

集落跡からは掘立柱建物60棟以上、中世墓50基以上など多くの遺構が見つかり、膨大な量の遺物が出土しました。伊勢神宮の祭主にかかわる遺跡と考えられます。



墨書で絵が描かれた土器



※年表の記載は、展示の対象となる時代を表しています。

三重県埋蔵文化財センター TEL:0596-52-1732 E-mail: maibun@pref.mie.lg.jp URL: https://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/

玉城町教育委員会 TEL:0596-58-8212 E-mail: syoukyou@town.tamaki.lg.jp URL: https://kizuna.town.tamaki.lg.jp

## 大谷遺跡

縄文時代

玉城町上田辺(田丸地区)

縄文～江戸時代までの幅広い時期の遺跡です。縄文時代中期～後期の特徴的な文様が描かれた土器片が出土しました。



## 月よべ遺跡

弥生時代

玉城町野篠(外城田地区)

弥生時代中期～後期の方形周溝墓が3基見つかかり、完形に近い弥生土器が出土しました。被葬者へ供えられたものと考えられます。



## 尾崎古墳群

古墳時代

玉城町世古(有田地区)

平成29年に発掘調査が行われ、直径約13～17mの円墳が3基、一辺14mの方墳が1基確認されました。

古墳の周溝からは、多数の円筒埴輪片が出土しました。円筒埴輪片から、5世紀後半～6世紀初頭頃に築かれた古墳と考えられます。



## 間無事古墳

●初公開●

古墳時代

玉城町世古(有田地区)

平成28～29年に発掘調査が行われ、直径26mの円墳であることがわかりました。

墳頂から2基の木棺のあとがほぼ平行して見つかりました。



## 北側埋葬施設

2基の埋葬施設のうち、先に築かれた(6世紀後半頃)埋葬施設です。

棺外で土師器の高杯が二列に並んで出土しました。高杯の上には、土師器碗が置かれていたものも多く、埋葬に伴う祭祀のあり方を示す貴重な資料です。棺内には土器だけでなく、大刀や小刀、鉄鏃などの武具が多く副葬されていました。



## 南側埋葬施設

北側埋葬施設の後、6世紀末～7世紀初頭頃に築かれています。

須恵器の高杯や脚付碗、脚付短頸壺の壺部が棺上に副葬されていました。また、棺内から勾玉や水晶製切子玉などの玉類、耳環も出土しました。



## カリコ古墳

古墳時代

玉城町世古(有田地区)

6世紀後半頃に築かれた東西約15.5m、南北約14mの円墳です。

埋葬施設は4基みつかりました。いずれも木棺直葬で、長大な3基の木棺は成人用、小規模な1基の木棺は小児用である可能性が高いことから、有力家族の墓であったと考えられています。

埋葬施設からは、土器や鉄器、玉類などが多数出土し、一括して玉城町指定有形文化財に指定されています。



## 矢塚古墳群

●初公開●

飛鳥時代

玉城町宮古(下外城田地区)

30基もの古墳が密集する古墳群です。このうち平成30年に16基の発掘調査が行われました。

11基の円墳と5基の方墳が、7世紀後半～8世紀初頭頃間に次々と築かれたと考えられます。周辺の古墳群の中では、最も新しい時期の古墳群です。

14基の古墳から木棺直葬と思われる埋葬施設がみつかり、その内部や周辺から須恵器などが出土しました。



## 田丸道遺跡

古墳時代

玉城町妙法寺(有田地区)

弥生～平安時代にかけての遺跡で、外城田川の前身と考えられる幅55.5m、深さ2m以上の河道跡が確認されました。

南岸では、古墳時代後期の集落跡と、「堰」とされる遺構がみつかりました。河の流れを変え、用水を引き入れるための施設かもしれません。

周辺からは古墳時代後期の土器や、農耕具、建築部材、祭祀具などの木製品が多数出土しました。木製品は、腐って残りにくいため、木製品はとても貴重な資料です。



下駄

## との山・アレキリ遺跡

古墳～奈良時代

玉城町中角(下外城田地区)

旧石器～江戸時代にかけての遺跡ですが、平成27～28年に行われた発掘調査では、古墳時代後期～奈良時代の集落跡が確認されました。

この時代の竪穴住居10棟がみつかったほか、直径約4.8m、深さ約0.5mの大きな穴から、土師器甕や甕などの煮炊具がまとめて出土しました。

